

講評

1. 総評

本事業者公募には、5つのグループ（企業連合体の応募者）から応募申込書の提出があった。

まず、限られた公募スケジュールの中、本公募に対して熱意を持って参加し、多大な労力をかけて真摯に取り組み、貴重な事業提案をいただいた全ての応募者の方々に対し、「西神中央 文化・芸術ホール等整備事業 優先交渉権者選考委員会」（以下「選考委員会」という。）として心からの敬意を表したい。

応募いただいた各応募者は、これまでホール・図書館等の文化施設等と住宅の複合開発事業や、本公募と同種同規模以上のホールを自ら管理・運営した実績を有する企業から構成されており、西神中央駅周辺一帯のリノベーションに対する関心の高さと、企業連携により意欲的に取り組む姿勢が感じられた。

提出された事業計画書は、各応募者の知見と自由な発想に基づく企画力・ノウハウ・実行力等が活かされ、西神中央に新たな魅力を創出し、西神中央の都市機能の拠点性をより一層高めることが期待できるものであった。

このような提案の中から、選考委員会では、「事業実施計画」、「施設計画」、「景観計画」、「事業計画」の各項目について審査し、その結果、提案内容がまちの魅力やブランド力の向上に繋がると判断した応募者を選考した。

以下、優先交渉権者の事業提案について、顕著に評価すべき点を申し述べる。

2. 選評

「事業実施計画」の項目では、執行体制並びに資金計画や工程などの計画の熟度、事業実績を審査対象としていたが、代表企業、構成企業、協力企業のいずれも多数の実績があり、継続的に安定した事業執行が期待できる点が評価された。

「施設計画」では、知と芸術が融合し、新たな出会いと高揚感を誘発する仕掛け（アートウォール）のある交流モールの提案があり、ホールと図書館が一体となって賑わいを作り出す仕組みづくりが期待できるものであった。

各施設においても、ホールでは、デザイン性を保ちつつ、多様なホール機能を追求した計画となっており、生音の響きに配慮した気積を確保した提案であった点、また、図書館は、音を基準にしたゾーニングがされており、様々な世代が共に集い、本とふれあえる場となっている点や、利用者動線と作業動線を明確に分離し、安全と効率的な運営に配慮された計画等が評価された。

「景観計画」においては、人目を引くデザインは独創性があり、また、夜間景観も優れることから、ランドマークとしての役割を十分に果たすことを期待している。

「事業計画」では、ホールの管理・運営において、住民参画をも見据えた、市民と芸術の交流を目的とした自主事業や、図書館も一体となったイベントを企画されている点が評価された。

以上のような評価から、応募者の中で、内容点が最も高く、全体として総合的にバランスの取れた提案であったことから、本委員会として内容審査通過者を選考したものである。

今後は、神戸市と協力しながら、着実に提案内容を推進していただきたい。